

令和五年八月鹿ノ台川柳教室（誌上）優秀句

近頃は花火見物ただじゃない  
博文

遠い日の線香花火あわい恋  
哲子

ビルが建ち花火見えずに音を聞く  
基弘

ベランダの空に半分あとは音  
ミチ

浄土から大きな花火うち返す  
正清

天神の花火が祝う誕生日  
ひよこ

少し遅れてドドドドドーンと呼びます  
乃り子

花開く花火の音に赤児泣く  
登美

線香花火手に人生を振り返る  
英二

ヒュルヒュルドンお腹に響く夏の音  
きよな

ドンドンがドーンと遠花火  
ちさと

花火買ひ孫待つ夏は遠くなる  
幸男

秀 音少し遅れ寄り添う遠花火  
よう子

軸 夏祭り花火見るため浴衣着る  
えいじ

お題「ゆらり」（共選）伊藤基弘選

入選句は順不同

飲み過ぎかゆらりふらつく足元が  
博文

川面の灯ゆれて再起の背中押す  
アキラ

かげろうの果てに未来をのぞきみる  
正清

逃げ水を保育園児が猛ダツシュ  
ちさと

初デート気持ちゆらゆら揺れている  
えいじ

アスファルト陽炎見たのいつだっけ  
ミチ

仏壇の蝋燭ゆらり母かしら  
広子

実がたわわゆらりとゆれて秋近い  
博文

幼子の食事しながらこつくりこ  
きよな

居眠ってゆらりゆら椅子の上  
ひよこ

まさか彼ところが少しぐらついた  
哲子

縄のれん入れ入れとゆらりゆれ  
登美

下見ずに揺らさぬようにかざら橋  
健一

陽炎がみな美しい過去にする  
よう子

秀 暑すぎて景色もゆらり気もゆらり  
哲子

軸 通夜の部屋煙一筋立ち上がり  
基弘

お題「ゆらり」（共選）勝部乃り子選

慌てるなゆらりゆらりと参ろうぜ  
えいじ

仏壇の蝋燭ゆらり母かしら  
広子

木の葉舟蝶がとまってゆらゆらり  
きよな

幼子の食事しながらこつくりこ  
きよな

この暑さあちらこちらで陽炎が  
基弘

自由時間ゆらり漕ぎだす貸しボート  
郁子

逃げ水を保育園児が猛ダツシュ  
ちさと

縄のれん入れ入れとゆらりゆれ  
登美

お題「駅」奥村義雄選 入選句は順不同

東京行き片道切符握りしめ 英二

違う景色見たくてふらり途中下車 広子

荒草のはびこるばかり廃線路 正清

人生の終着駅は天国へ 幸男

終電車めがけてダツシュ遠い過去 健一

スマホなく伝言板の白チョーク ミチ

定年の終着駅は始発駅 よう子

初めての駅に降り立つ旅ごころ 郁子

昔より駅は子どもの夢つむぐ 博文

いしぶみに歴史のありて鄙の駅 正清

青春の伝言板が消えた駅 幸男

無人駅一輪挿しの花萎れ 基弘

人生の終着駅は愛妻と 登美

ある決意秘めた女の始発駅 よう子

秀 米露日なかく宇宙ステーション アキラ

軸 お浄土の駅に待つのはきつと母 義雄

お題「吹く」澤山よう子選

フツと吹く練習してるバースデー 乃り子

大はしやぎ初めて吹けたシャボン玉 健一

明日吹く風に期待しもう寝よう 英二

前の世は小野小町というダボラ ちさと

景気風どこで吹いてるここ無風 哲子

琴の音の憂いを運ぶ秋の風 幸男

加齢臭気になる今日のひがし風 乃り子

物干しの竿を取り込み耳澄ます ミチ

年金が値上げの風に縮こまる アキラ

いい汗にいい風きつと吹いてくる 広子

つらい事泣かず笑いで吹き飛ばす 登美

吹くたびに音程変わる爺の曲 基弘

甲子園トランペットの勇ましさ ちさと

新しい風がマンネリ気付かせる アキラ

秀 担任の吹くフルートで知るビゼー 郁子

軸 辛抱の手に幸せの芽が息吹きだす よう子

お題「花火」（連記）森里えいじ選

驚いて犬鳴き競う大花火 アキラ

線香花火触れなば落ちん素振りして 広子

土手席がコンサート並み揚げ花火 郁子

将棋指す周りで花火昭和の夜 健一

実がたわわゆらりとゆれて秋近い  
ゆらりからドタリときたら救急車  
もつ鍋をあけて魂までゆらり  
厚い本借りてリュックがみぎひだり  
川面の灯ゆれて再起の背中押す  
位牌の影大きく揺れる盂蘭盆会  
秀 下見ずに揺らさぬようにかずら橋  
軸 望んでた暮らしユラりがぐらぐらり

博文  
アキラ  
正清  
ひよこ  
アキラ  
英二  
健一  
乃り子

台風の置き土産にて悩む日々  
今日こそと唱えるだけの休肝日  
ワクチンを六回も打つ驚きよ  
ワクチンを打っても罹る不運あり  
会釈して田に水を引き草茂る  
野仏にちよこなんとしてきりぎりす

博文  
正清  
ひよこ

自由吟 自選 五十音順  
さて土用今年もボクはハムレット  
花火見て少し納得自治会費

アキラ

骨折って気づく我が家は段ばかり  
宅配の荷物でメダカ一夜明け  
二万歩は歩きすぎだと膝笑う  
娘はパスタ父は頑固でスパゲティ

基弘

軍拡の言い訳にする抑止論  
戦前といつもの顔で言うタモリ

郁子

傾いた夕日に今日を感謝する  
アイディアも蒸発したかこの暑さ

よう子

天国で一緒に飲もう待っててや  
亡き友にラインしている暢気もの

えいじ

汚染水子らが唄えぬ海のうた  
双曲線描いた恋も美しく

義雄

奥さんが認知症だというライン  
原爆を落とした国の傘の中

英二

勉強会 お題「まさか」詠み込み不可

夏の朝セミやかましく生きている  
キャンプする夜焼き肉に焼きそばに

きよな

☆終末時計一分半のこの地球  
☆完封の2時間あとに2ホーマー  
☆猛暑日にお節のパンフもう届く

郁子  
健一  
基弘

風も無く池も無いのにこのスコア  
補聴器つけて悪口だめと笑う母

健一

電話口繋がったまま悪口を  
清純派思いがけない裏の顔  
物価高に百円野菜なす三つ

えいじ  
健一  
ひよこ

真夜中に徘徊をする熱帯魚  
遠くきて廃校跡の草いきれ

ちさと

推理ものエッこの人が予想外

ミチ

四年振り浴衣が揺れる踊りの輪  
一点差勝ち負け越える熱い夏

哲子

九月勉強会 九月十四日(木) 十四時三十分〜  
ふれあいホール(図書室) 一階和室D 席はイス  
お題「飲む」二句 アキラ迄前日までに事前投句

友来る稚アユ煮持ってニコニコと  
誰よりも元気でいたい膝と腰

登美

\*会場、時間 いつもと違います。ご注意ください

大谷は天に二物を与えられ  
AIがお経唱える母の通夜

乃り子

推薦十句 田中 薫選 句会結果掲載順  
定年の終着駅は始発駅  
ある決意秘めた女の始発駅  
米露日なかよく宇宙ステーション  
新しい風がマンネリ気付かせる

よう子  
アキラ  
アキラ

片道の燃料入れて敵艦へ  
この気象きつと地球の断末魔

広子

将棋指す周りで花火昭和の夜  
花火買い孫待つ夏は遠くなる

健一  
幸男

陽炎がみな美しい過去にする                    よう子  
補聴器つけて悪口だめと笑う母                    健一  
四年振り浴衣が揺れる踊りの輪                    哲子  
骨折って気づく我が家は段ばかり                    ミチ  
(評) 今月はお盆という月柄か、懐古趣味的な句  
が多いように感じました。番傘川柳本社田中新一  
主幹は「川柳作家は時代の最先端を見よ」と言わ  
れました。これは時事句を作れと言う意味ではな  
く新しい句材を常に探せという心構えと私は思  
っています。    奈良番傘川柳会    会長田中 薫

九月会場は、祝日の為、北集会所になります。

九月句会    北集会所二階    九月十八日(月)  
十二時五十分から会場準備    十三時出句  
「土産」互選(事前投句のこと    コピーで互選)  
「新聞」(連記)    広子    「流れる」健一  
「うっかり」(共選)    ひよこ    幸男    各二句  
自由吟(記名・メモで提出)    六句

\*自由吟は既発表句も可。  
句箋でなくメモで提出を。

自由吟六句をオータムフェスタに展示します。

日頃思うことを、五七五で詠んでいます。

五七五 詠んで恥かき    汗もかき

新入会員大歓迎    新入会員向け勉強会実施中  
入会金不要    月会費百円

お問い合わせ    \*お電話ください    資料持参します

原 広子    79・0061

野々村アキラ090・6961・1292